【テーマ】　あなたは、コンサルタントという職業を選択しようとしていますが、  
　　　　　　その理由をこれまでの学業、人生経験や価値観などから具体的に  
　　　　　　まとめてください。  
  
【様式】　1，000文字以内

コンサルタントという職業に就きたい理由は２つある。

第一に、企業の課題解決を通じて多くの人に利益や恩恵をもたらすことができるからだ。これは自分だけではなく他人・社会のために頑張りたいという私の価値観に適っていると考えた。私は一年間、留学生を対象とした進学塾で大学院の面接指導をした経験がある。私が担当するまでは個別支援が徹底できておらず、大学院の面接の合格率の低さが問題になっていた。そこで、私は他講師との情報共有により、担当生徒の今までの学習状況を把握した。その後、生徒1人1人と面談を行い、それぞれの特徴や課題を明らかにした上で、模擬面接を通じて問題点を改善した。結果として、私が担当した生徒20名の中で、16名が第一志望校に合格することができ、生徒から感謝の声を掛けられた際、大きなやりがいや達成感を感じた。このように、私は他者へ貢献することにやりがいを感じ、顧客と誠実に向き合い、一番フィットするソリューションを考え抜き、提案・実行まで求められるコンサルタントという職業に就きたいと考えるようになった。

第二に、若手の内から幅広い分野のプロジェクトに携わることができ、個人の能力や知見を高める機会が多く得られると感じるからである。私は学生時代に常に困難に挑戦し、主体的に行動し、そこで成果を出し自己を成長させてきた。大学院では日本人学生を対象にする敬語コミュニケーションという授業にティーチングアシスタントとして参加し、1コマの授業を担当した。日本語学習者という外国人の立場から日本人学生に敬語を教えることになり、今まで経験したことがなく不安な中、自分だからこそできる授業のコンテンツ作りに挑戦した。日本人学生が馴染みやすい事例と留学生から見る敬語の難しさの事例を両方提示することによって、「発見」が生まれやすいような授業デザインをした。また、動画という新しいコンテンツの形を導入し、敬語のミスコミュニケーション場面を分かりやすく表現した。授業後、日本人学生から活発に議論ができてよかったというコメントをもらうことができた。このような困難に立ち向かい成長してきた過去の経験から、これからの仕事においても、自分自身を商材として常に磨き続けたいと考え、若いうちから企業の難題な経営課題に向き合い、経営者と対等に渡り合う機会が得られるコンサルタントは、自身の成長環境として最適であると考えた。